

新居浜工業高等専門学校	開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	情報リテラシー
-------------	------	-----------------	------	---------

科目基礎情報				
科目番号	121106	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気情報工学科	対象学年	1	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	情報処理入門 (スタンダード版) (プロデュース)			
担当教員	先山 卓朗			

到達目標				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 電子計算機室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができること。 2. キーボードから文字の入力がスムーズにできること。 3. ワードプロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できること。 4. 表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できること。 5. コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解すること。 6. ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を知ること。 7. ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解すること。 8. 情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解すること。 9. 情報を発信する場合や受信する場合のモラルについて理解すること。 				

ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目 1	演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、堅牢なパスワードに変更ができる	演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができる。	演習室のコンピュータにログオン、ログアウトができ、パスワードの変更ができない。	
評価項目 2	タッチタイピングによりキーボードから文字の入力がスムーズにできる。	キーボードから文字の入力がスムーズにできる。	キーボードから文字の入力がスムーズにできない。	
評価項目 3	ワードプロソフトを用い、図表入りの書類が自由に作成できる。	ワードプロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できる。	ワードプロソフトを用い、簡単な図表入りの書類が作成できない。	
評価項目 4	表計算ソフトを用い、計算やグラフを自由に作成できる。	表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できる。	表計算ソフトを用い、簡単な計算やグラフを作成できない。	
評価項目 5	コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解でき、有効な対策を実施できる。	コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解できる。	コンピュータウイルスやセキュリティホールについて、その危険性や対策方法を理解できない。	
評価項目 6	ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解して実施できる。	ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解できる。	ネットワーク社会におけるセキュリティ技術について理解し、自らを守る方法を理解できない。	
評価項目 7	ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解して適切な行動ができる。	ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解できる。	ネットワーク上での犯罪や有害情報について知ること、高度情報化社会の負の面について理解できない。	
評価項目 8	情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解して説明することができる。	情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解できる。	情報に関する法律について学び、個人情報や著作権の重要性について理解できない。	
評価項目 9	情報を発信する場合や受信する場合のモラルについて理解でき、適切な行動ができる。	情報を発信する場合や受信する場合のモラルについて理解できる。	情報を発信する場合や受信する場合のモラルについて理解できない。	

学科の到達目標項目との関係

工学基礎知識 (A) 教養 (D)

教育方法等

概要	コンピュータ操作の基本、キーボード操作、ワードプロソフトや表計算ソフトの使い方などのコンピュータリテラシーや、インターネット利用する上でのモラルや危険性、高度情報化社会における法律について学ぶことを目的とする。
授業の進め方・方法	これからの高度情報化社会を生きていくには単にコンピュータが使えるだけではなく、セキュリティ対策やモラルがとてても大切になります。中学校の技術家庭で学んだことに加えて、是非この授業で高度情報化社会に参画する姿勢を身につけてください。 計算機演習室での演習を重視し、座学による講義も取り混ぜて行います。
注意点	事前学習：教科書や配布資料をよく読み、コンピュータの操作に早く慣れてください。 自己学習：授業時間外でも演習室を利用できるので、いつでも自主的に実施してください。 関連科目：電気情報工学科では、情報処理基礎・プログラミングなどの科目に関連していく内容となります。

本科目の区分

Webシラバスと本校履修要覧の科目区分では表記が異なるので注意すること。
本科目は履修要覧(p.9)に記載する「①必修科目」である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	電子計算機室の使い方、パスワードの管理、WebClassの使い方、インターネット検索	1
		2週	情報セキュリティ1 (コンピュータウイルス、セキュリティホール)	5
		3週	ワードプロソフトの使い方1、タイピング練習	2,3
		4週	情報セキュリティ2 (ネットワークのセキュリティ)	5,6
		5週	ワードプロソフトの使い方2、タイピング練習	2,3
		6週	情報セキュリティ3 (ネット詐欺、ファイル交換ソフトの危険性)	6,7

2ndQ	7週	ワープロソフトの使い方3、タイピング練習	2,3
	8週	情報セキュリティ4 (有害サイトの対策・暗号化)	6,7
	9週	表計算ソフトの使い方1	4
	10週	情報モラル1 (個人情報の保護)	8
	11週	表計算ソフトの使い方2	4
	12週	情報モラル2 (著作権の保護)	8
	13週	表計算ソフトの使い方3	4
	14週	情報モラル3 (ネットワークエチケット・情報の発信と受信)	9
	15週	期末試験	
	16週	試験返却・解説・復習	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理 (知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	3	前10
			高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	前2	
		情報リテラシー	情報リテラシー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用できる。	3	前14
				コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる。	3	前1
				情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握している。	3	前1
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	3	前2,前10
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮ができる。	3	前10
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威を認識している	3	前14
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	前14
				少なくとも一つの具体的なコンピュータシステムについて、起動・終了やファイル操作など、基本的操作が行える。	4	前1,前2
少なくとも一つの具体的なオフィススイート等を使って、文書作成や図表作成ができ、報告書やプレゼンテーション資料を作成できる。	4	前3,前5,前7,前9,前11,前13				
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	その他の学習内容	少なくとも一つのメールツールとWebブラウザを使って、メールの送受信とWebブラウジングを行うことができる。	4	前1
				コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	4	前2
				コンピュータを扱っている際に遭遇しうる脅威に対する対策例について説明できる。	4	前2
				基本的な暗号化技術について説明できる。	4	前8
				マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	4	前2,前4,前6
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	前14
				収集した情報の取舍選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	前14
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	前14
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	前14
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	前10,前12,前14

評価割合

	試験	課題提出・ミニテスト・受講態度	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	40	60	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0